令和７年度　研究推進計画

１　学校教育目標

（１）教育目標

「自分を伸ばし、広い心でがんばり通す寿小の子」

（２）めざす子ども像

知　よく考え、進んで学ぶ子
徳　明るく思いやりのある子
体　強く、たくましい子

（３）今年度の重点目標

多様性を認め、自分らしさに自信をもって、たくましく意思決定のできる子どもの育成

２　研究主題　（１／３年次）★

寿小のさいこう～最高・再考・再構～

３　主題のおさえ

主題設定の理由

近年は、知識・情報・技術の変化が加速度的になり、人間の予測を超えて変化するようになっている。この先を見通しにくい時代にあって、これからの社会で新たな価値を創造していこうとする主体的な姿勢こそ大切になる。本校では、子ども達の主体性の育成・学力の向上に向けて、「単元計画の作成」「導入の工夫」「全体交流の整理」の３つの柱を中心に、これまで研究を進めてきた。「寿都小学校のスタンダード」として、後志管内でも指針となるような取り組みを全校で行い、子ども達も学びを楽しみ、楽しさを創造していこうとする姿が見られるようになった。しかし、今後、学級児童数の減少や学級減、教員の削減により、これまでの研究を「スタンダード」として、維持・発展させていくことができるかどうかが疑問視されるようになってきた。

そこで、これまでの研究の内容を維持・発展させていくためにはどのようなことが必要なのか、どのような工夫が必要なのかを学校全体で考え、共有することで、寿都小学校のスタンダードがより強固なものとなり、子ども達の学力向上につながるのではないかと考えた。これまでの「当たり前」を見直し、さらに深化していくための「再考」の期間を通して、寿都小学校の研究・スタンダードを「再構」し、子ども達にとっても教員にとっても「最高」の寿都小学校を授業を通して創り上げていくことを目指したい。

① 単元計画の作成　→　より充実した計画、複式を意識した計画、子ども達主体の計画
② 導入の工夫　→　負担感の少ない導入の開発、複式を意識した導入
③ 全体交流の整理　→　複式を意識した全体交流、日常的な全体交流の充実

４　研究で目指す子ども像

①単元を見通し、学びに主体的にたくましく関わる子
②学びを楽しみ、自信を持って学びに関わる子
③自分らしさを大切に、自分の意思を表現できる子

５　研究の仮説

①～③を充実させることが、子ども達の主体性の育成および学力向上につながり、寿都小学校のスタンダードを維持・発展させていくことができるのではないか。

６　研究の視点と手立て

視点	手立て
①　単元計画の作成 形成的評価の充実 評価計画の作成	・単元計画、評価計画の作成、充実 ・総括的評価と形成的評価の確実な理解にもとづく、形成的評価の充実
②　導入の工夫	・授業始めの５分で子ども達の意欲を高め、「～～たい！」を生み出す。また、その方法を学校で共有する。 ・ゲーム化、日常化、クイズ化を意識する。
③　全体交流の整理	１、子ども達に発言を復唱してもらいます。 ２、開いた質問を増やします。 ３、全体交流の始めの質問に力を入れます。

７　研究の計画

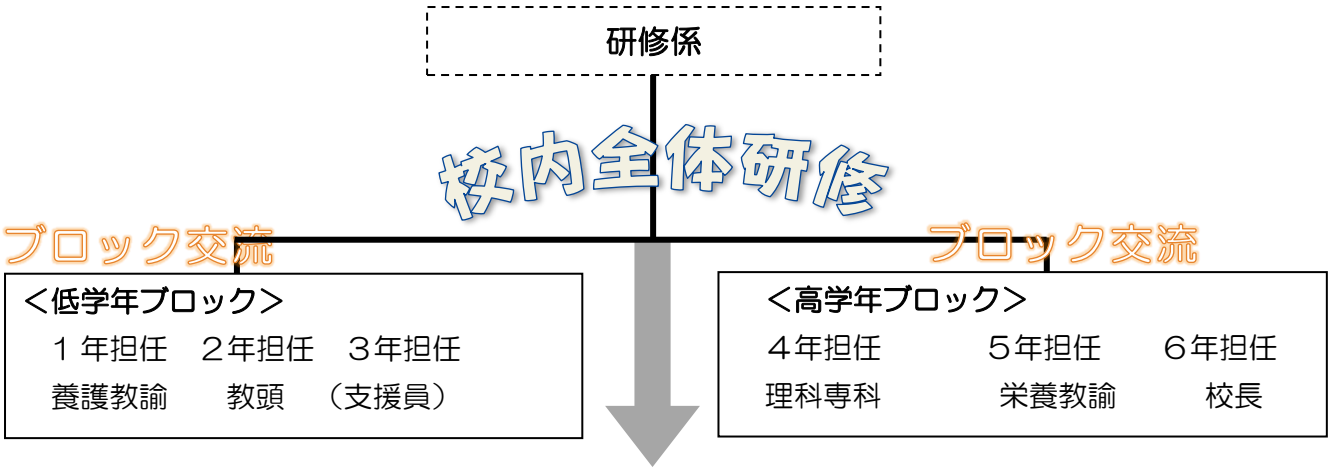
１年次（令和７年度）	２年次（令和８年度）	３年次（令和９年度）
○板書型指導案の検討 ○単元計画の再考・再構	○板書型指導案の蓄積・共有 ○導入の工夫の再考・再構	○板書型指導案の共有・進化 ○全体交流の再考・再構 実践発表会の実施

各年度の「再考」「再構」の重点項目が決められているということであって、重点項目以外を研修の対象から外すという意味ではありません！

研究において目指す子ども像（具体）	低学年	中学年	高学年
①「～～だい！」という思いを持ちながら、自分に必要な学習を考え、自分らしく学ぶことができるようになったか。	・授業中に先生が伝えた「やるべきこと」を自分から進んでやることができる。	・自分のやるべきことが終わった後に、何をすればよいか考えて行動している。	・自分のやるべきことが終わった後に、クラスのためや自分のためになる行動を考えて行動している。
②見通しを持って学習に臨み、自分自身の学習の調整に活用することができたか。	・次の時間にどんなことをやるのかを考えたり、単元のゴールについて考えたりしている。	・単元計画を見ながら、「次の時間に向けて」や「単元のゴールに向けて」のふりかえりを書いている。	・中学年と同様。 ・自分に必要な自主学習を考えたり、授業中の学習方法を工夫したりしている。
③自分自身の考えを自分なりの方法で表現することができるようになったか。また、表現する方法の選択肢を増やしていたか。	・授業中に自分の考えを表現することができる。	・授業中に当てられたときに、自分の言葉で考えを表現することができる。（教科の言葉） ・友達との交流で自分の考えを表現している。	・授業中に適切な表現方法を選択し、自分の言葉で考えを伝えることができる。 （教科の言葉・比較・追加・類推・比喩など）

※　学校全体で目指す児童像として、今後も大切にして欲しいということで掲載します。

８　研究体制



ブロック交流授業について
① 事前の指導案検討は行わなくてもよいです。授業者が必要と思うときのみ実施してください。
② 事後検討は３０分以内で実施しましょう。「全体交流」についてのみでも構いません。
１１～１２月のブロック交流授業→これまでの研修の成果をそれぞれのブロックで交流できるようにする

～持続可能な研修に向けて～　【令和７年度の取り組み】
目的：① 研修に追われて子どもと関わる余裕を失わないようにするため
② 日常につながる研修を進めていくため。

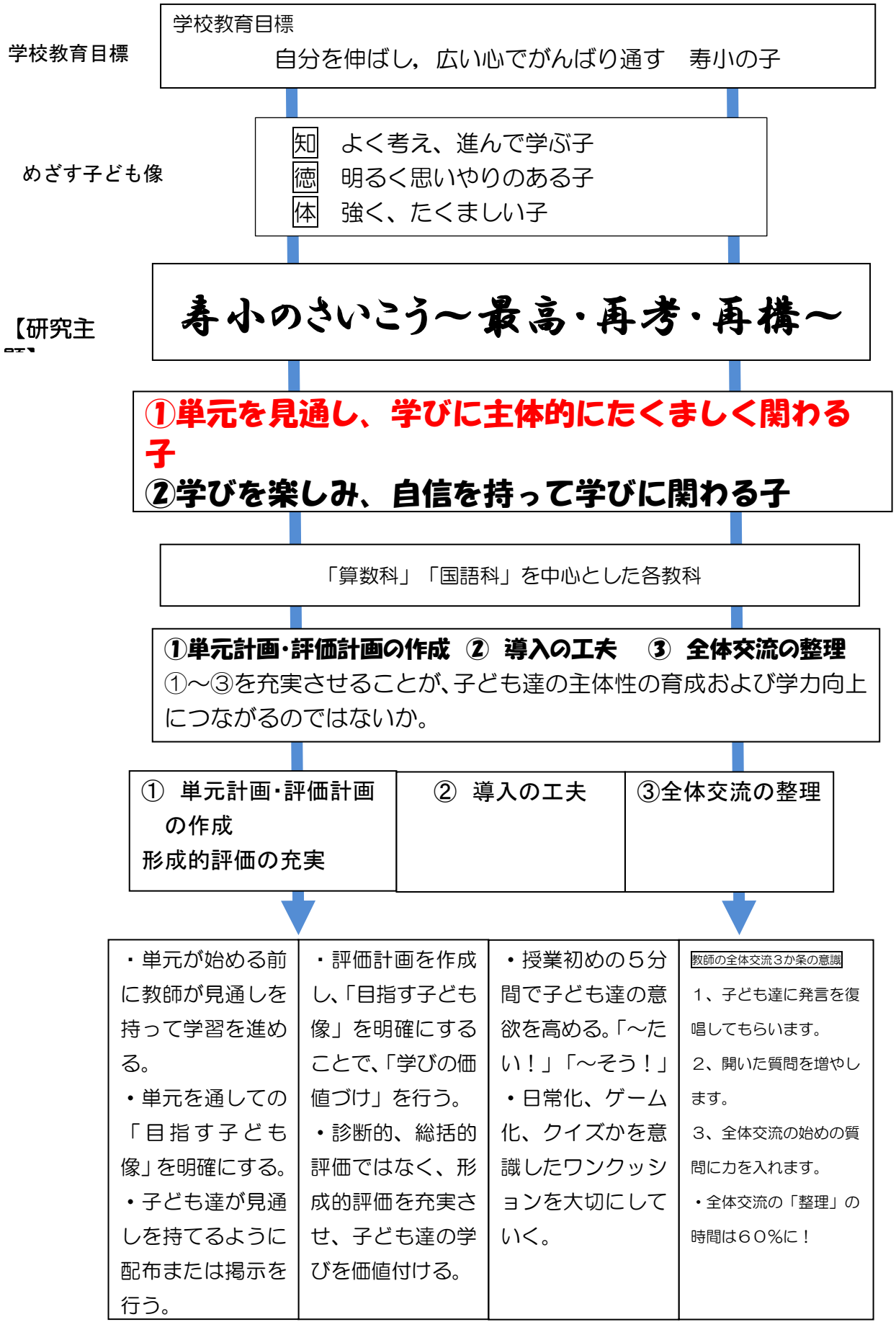
持続可能ポイント
① 研修日・研修時間の削減　→　日常的に職員室で交流・相談を行っていく
② 単元計画の蓄積・活用　→　新しく作る必要がないため、勤務時間の削減へつながる
③ 教科選択制　→　教科については算数に限定しないことで、進度への負担を軽減する。
④ 火曜日日課の活用　→　火曜日のＢ日課を活用して、負担感のない研修を進めていく。
⑤ 授業公開の削減　→　研究＝授業の公開ではなく、単元計画・指導事項の検討などを中心として進める。
⑥ 研修便りの廃止　→　授業を参観しながら専用のチャットに意見などをどんどん書きこむ？

単元が始まる前に、それぞれのブロックで単元計画を持ち寄り、どのような計画がよいのか、どのような活動がよいのか、どのように計画を立てることがよいのかを話し合う時間を充実させることで、授業を公開しなくても、意義のある研修を行うことができるのではないかと考えます。

１０　令和７年度　年間活動概要・計画

	月　日	研究内容
前期	４月１０日（木）研①	●研究内容　●研究体制の確認 ●ブロック授業提案
	４月２４日（木）研②	☆提案授業（５年生）※研修担当の学年で実施 ●事後研 ●ブロック交流提案　●交流授業者
	７月１０日（木）研③	☆交流授業　高ブロ（　）年生 ●交流授業・事後検討
	夏季休業中	●これまでの振り返り・新学期に向けて （単元計画の再編・指導事項の確認）
	９月１８日（木）研⑤	☆交流授業　低ブロ（　）年生 ●交流授業・事後検討
後期	１１月　６日（木）研⑥	○単元計画の再考・再構 ●ブロック交流授業について
	１１月７日～１１月２８日	ブロック交流授業
	１２月　４日（木）研⑦	●ブロック授業交流反省
	冬期休業中	スキー研修　スキー場へ行こう！
	１月２９日（木）研⑧	●検証授業（　）年生　事後研
	３月　５日（木）研⑨	●今年度反省・来年度提案

１１　研究の全体構造


学校教育目標
学校教育目標
自分を伸ばし，広い心でがんばり通す　寿小の子
めざす子ども像
知　よく考え、進んで学ぶ子
徳　明るく思いやりのある子
体　強く、たくましい子
【研究主
寿小のさいこう～最高・再考・再構～
①単元を見通し、学びに主体的にたくましく関わる子
②学びを楽しみ、自信を持って学びに関わる子
「算数科」「国語科」を中心とした各教科
①単元計画・評価計画の作成　②　導入の工夫　③　全体交流の整理
①～③を充実させることが、子ども達の主体性の育成および学力向上につながるのではないか。
①　単元計画・評価計画の作成
形成的評価の充実
②　導入の工夫
③全体交流の整理
・単元が始める前に教師が見通しを持って学習を進める。
・単元を通しての「目指す子ども像」を明確にする。
・子ども達が見通しを持てるように配布または掲示を行う。
・評価計画を作成し、「目指す子ども像」を明確にすることで、「学びの価値づけ」を行う。
・診断的、総括的評価ではなく、形成的評価を充実させ、子ども達の学びを価値付ける。
・授業初めの５分間で子ども達の意欲を高める。「～たい！」「～そう！」
・日常化、ゲーム化、クイズかを意識したワンクッションを大切にしていく。
教師の全体交流３か条の意識
１、子ども達に発言を復唱してもらいます。
２、開いた質問を増やします。
３、全体交流の始めの質問に力を入れます。
・全体交流の「整理」の時間は６０%に！